

各教科

3色マーカーを使った視覚的な交流



国語「つぼみ」の学習。自分が書いた文章を友達と読み合いながら、つぼみクイズを作っていく。友達と読み合う際には、「自分と同じところ・よく分からないところ・真似したいところ」の3つの視点で、3色の色鉛筆を使って線を引きながら交流した。学習の最後には、完成したつぼみクイズを6年生に聞いてもらい、満足げな児童の姿が見られた。



言語化による気付き

ひらがなの学習が終わった段階で初めてのOPPシートに取り組んだ。体育「水遊び」の単元では、学習前に「水と仲良くなるには」という本質的な問いを設定した。「楽しかった」だけではなく、毎時間の学習活動で大切だと思ったことを自分の言葉で振り返ることができた。少しずつOPPシートの書き方にも慣れ、次に取り組んだ算数「10よりおおきいかず」では、自分の振り返りをより詳しく書けるようになってきた。



ゼミナール形式によるグループ学習

国語「ことばをみつけよう」では、ホワイトボードを使ってゼミナール形式で学習を進めた。まずは、グループで言葉を見付け、次に他のグループへ行き、まだ見付けていない言葉のヒントを付箋に書いて貼った。いろいろなグループを回った後、自分のグループに戻って付箋のヒントからまだ見付けていない言葉を見付けた。児童はヒントの出し方を工夫したり、ヒントから答えを探したり、夢中になって取り組んでいた。

生活科の時間



全員が考えをもちより、話し合い、まとめる

学校探検をして、もっと知りたいこと、聞いてみたいことを先生たちにインタビューしに行った。教えてもらったことを劇、クイズ、ペープサート等それぞれの方法でグループごとにまとめた。グループで意見を交わしながら、他の人に分かりやすく説明するための準備を意欲的に行うことができた。



本物のオーディエンスへの発表

学校についてまとめたことを他のグループや保護者に発表する。学校のことを詳しく知らない、保護者を対象にすることで、わくわく感、ドキドキ感につながった。保護者から感想をもらえたことで、自己肯定感を高めることができた。



自分の「やってみたい！」に取り組む

生活科見学で拾ったどんぐりや松ぼっくりを並べて、「何をやってみたい？」と児童に投げ掛けた。どんぐりごま、アクセサリー、けん玉、楽器、リース・・・児童一人一人が、自分の作ってみたいものをイメージしながら製作し、製作後は、学年全体で「あきまつり」を開いた。自分の製作したものをいきいきと紹介する児童の姿が見られた。

学校の教育目標「自立・共生・健康」